

ノーススター演習 VI

シンガポール

—背景

シンガポールでは、マドリード（2004年）とロンドン（2005年）の公共交通機関を狙った同時多発テロを念頭に、この規模の災害を想定したノーススター演習 V を 2006 年 1 月 8 日に実施しましたが、本年度もその成果を引き継ぐ形で、2008 年 5 月 23 日に大規模な非常訓練を行いました。「ノーススター演習 VI」と銘打ったこの訓練は、海上事故という前回とはまったく異なる災害に対応したもので、航行中の大型クルーズ船で火災が発生したという想定で乗客救助訓練が行われました。

ノーススター演習 VI は、シンガポールの領海で大規模な事故が発生した場合に関連機関が連携してその対応に当たることができるかどうかを確認できたという意味で、タイムリーな企画でした。その背景には、2004 年 10 月にフィリピン中部の海域で大型フェリーボート、スーパーフェリーが爆破され、116 人が死亡したり（犠牲者の死因は火災によるものとみられています）、2008 年 2 月に金門～廈門間を航行するフェリーで火災が発生したりするなど、近年フェリーをめぐる事件が相次いで起きているという事情があります。海上での非常事態については、シンガポール海事港湾庁（MPA）が災害対応管理機関となっています。また今回の訓練では、シンガポール民間防衛隊（SCDF）が先頭に立って立案と実施を指揮しました。



海事港湾庁の消火訓練

ウォン・カンセン副首相兼内相の立ち会いの元で実施されたノーススター演習 VI には、12 の関係機関から約 1600 人が参加しました。参加機関は以下の通りです。SCDF、スタークルーズとシンガポール・クルーズ・センター、移民検問庁（ICA）、海事港湾庁（MPA）、地方自治開発省（MCYS）、保健省（MOH）、交通省（MOT）、人民協会（PA）、外務省（MFA）、シンガポール軍（SAF）、シンガポール警察（SPF）。

—訓練の目的

ノーススター演習 VI は、客船事故対応計画（PVMCP）に基づき、災害対応管理機関である MPA なら

びに関係諸機関の災害対策の実効性を検証することを目的に計画されました。具体的には、PVMCPに定める以下の8つの重点項目について点検が行われました。船上火災の消火と救助。陸上からの消火と救助。乗客の避難。陸上対応委員会（LOC）による上陸地点の管理。非常事態対応委員会（EOC）の事故管理。負傷者管理。家族支援センター（FAC）における近親者（NOKs）への対応。マスコミ対応。

（負傷者の避難）

一 訓練の実施状況

主要関係者ならびに災害対策要員が海上災害対応時の実態をよりよく把握できるように、今回の海上訓練は実際のフェリーターミナルの営業時間内に行われました。また臨場感を高めるために、13層のデッキに宿泊・娯楽施設を備え、乗客・乗務員2800人を収容できるクルーズ船「スーパースター・アクエリアス号」が使われました。

訓練はすべての関係機関の参加を得て、船の調理室で火災が発生したという想定で行われました。クルーズ船には国際安全基準への遵守が義務付けられており、一般的にはきわめて安全性が高いのですが、避難手順を確認する必要上大規模な火災が発生したという場面が設定され、火災の一報を受けてMPA、警察沿岸警備隊（PCG）、シンガポール共和国海軍（RSN）をはじめとする主要機関が直ちに現場に駆け付けました。火災の広がりにより大量の負傷者が発生したことを想定し、およそ1000人が船上でやけどや刺し傷を負った怪我人の役を務め、また300人が家族や近親者の役割を演じました。

訓練には船の乗務員も参加し、船上でてきぱきと消火活動に当たりました。また乗務員は、乗客を船から避難させ、指定された2カ所の「上陸地点」、すなわちマリナ・サウス埠頭（MSP）とタナ・メラ・フェリーターミナル（TMFT）まで安全に誘導する責任も担っていました。MPAは火災の広がりを食い止めるために、陸上からの放水活動をサポートするとともに、乗務員と協力して、上陸地点への乗客の誘導に当たりました。一方PCGは海上封鎖を行い、スーパースター・アクエリアス周辺の船舶航行を規制するための作業を支援しました。2人の負傷者をシンガポール共和国空軍のヘリで避難させる訓練も行われ、また陸上ではMOHの医療チームがSCDF、SAFおよびシンガポール赤十字の協力を得て、負傷者のトリアージ、応急手当および病院前救護の訓練を行いました。



「オフサイト」の訓練地点の一つがチャンギ総合病院で、両上陸地点から負傷者がこの病院に搬送されました。またノーススター演習Ⅴに引き続き、今回の演習でも家族支援センター（FAC）の訓練が行われ、TMFTにほど近いチャンギ・シメイ・コミュニティクラブがFACに指定されました。FACは、

SPF が MCYS のケアチーム、人民協会、草の根活動の指導者ならびにボランティアの協力を受けて運営する組織で、家族や近親者に最新情報を提供するための拠点となります。また家族や大切な人の安否を気遣う人々の不安を和らげるために、ケアカウンセラーが配置されました。

シンガポールの港湾と領海の交通量が多いことから、MPA、SCDF ならびにその関係機関は、海運関連団体やクルーズ船運営会社、フェリーターミナル・オペレーターらと協力して、フェリー通勤者や運営会社にできるだけ訓練の影響が及ばないように配慮を講じました。なお前回は予告なしの抜き打ち訓練でしたが、ノーススター演習 VI は、事前に訓練の日時や実施内容などを広く通知した上で実施されました。周知徹底のために、メディア広告、特集記事、インタビューから成る積極的な宣伝活動を展開するとともに、フェリーターミナルなどの重要地点に訓練について詳しく解説したパンフレットを配置しました。また旅行代理店にもパンフレットのコピーを配り、同じ時間帯に移動を予定している旅行者に事前に訓練について知らせることができるようになりました。

— 結 論

ノーススター演習 VI は、領海内の海上安全の向上を目指してシンガポールが進める取組の中でも、重要な位置を占めています。この訓練により、複数の機関が協力して大規模な海上救助・避難活動を展開する上での現実と課題が浮き彫りになりました。また国民を守る立場にある諸機関が一堂に会し、シンガポールでテロが発生した場合の新たな対応のあり方について考える絶好の場にもなっています。海上テロ発生時の被害管理には固有の課題が伴い、膨大な人員、資源、調整活動、それに分野横断的な対応が求められますが、ノーススター演習 VI により対応上の不備が明らかになり、その改善がはかれるようになりました。全体としてノーススター演習 VI は、海運とクルーズの拠点を目指して今後も取組を続けてゆくシンガポールにとってタイムリーなものとなりました。

— 問い合わせ先

質問や不明な点については、下記担当者までお問い合わせください。

LTC Lim Boon Hwee

Assistant Director (Operations Plans)

Operations Department

Headquarters Singapore Civil Defence Force

(Email: LIM_Boon_Hwee@scdf.gov.sg)